

月刊
紀伊スポーツ

夏の高校野球

強豪にどう立ち向かう

7校の抱負聞く

第100回を記念した全国高校野球選手権和歌山大会が7月11日、和歌山市の紀三井寺球場で開幕する。春の選抜大会で準優勝した智弁和歌山などの強豪に、紀南のチームはどう立ち向かっていくか。田辺地方の7校取材し、鍵を握る選手に抱負を聞いた。



投手陣をリトす滝本拓芳君(田辺市東中)で。

神島

2年生が中心の投手陣をリードする捕手の滝本拓芳君(3年)は、昨年度の和歌山大会の回戦で智弁和歌山に2-12で6回コールド負けした時、マスクを被った。「殺れず、いつも通りの投球が大事だよ」とリトす。

チームを支える投手陣。
(左から) 瀧藤清太君、
新家隆貴、日崎幸汰君、
熊野輝君、
田辺市東中



連球派、技巧派、下手投げ、
田辺

左腕とライフの違う4人の投手で相手打線を叩き、そのうちの1人、田嶋幸汰君(3年)は「強豪にぶつかっても自分たちの持ち味を出し、最初から力強い」。



筋力トレーニングに励むメンバー(田辺市あけぼので)

田辺工業

ある程度の大得意覚悟の上で強く打ち勝つ野球ができるよう場から体を鍛えてきた。打線の軸になる前田航輝君(3年)は「みんな調子はいい。1点ずつ確実に取り、誰の手にも勝つ」。



串本古座

主将の滝本虎之介君は「今年こそ、平田君と試合をしたい」と言い合った。決勝を対戦したいと声を弾ませた。

雨の日に体育館でバドミントンのシャトルを打つ滝本虎之介主将(串本町串本で)

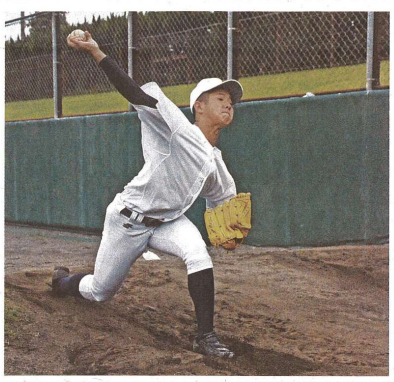
南部

3年生4人の中で、打線の中心に在る鈴村成聖君と丸山魁斗君。鈴村君は「強い相手でも驚かせ、自分たちのプレーをしたい」。丸山君は「チャレンジャーの気持ちで思い切りやれ」と意気込む。



南部 龍神

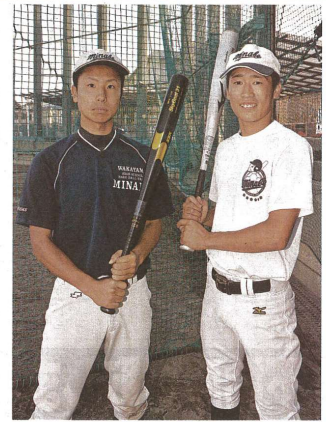
春の県予選3回戦で智弁和歌山に0-14で回コールド負けしたが、収穫は大きかった。捕手の和田孝生君(3年)は「智弁和歌山に負けながら優勝まで進めたのは、チームでは強気になったけど、みんなを締めよう」と意気込む。



熊野

主将の南翔弥君(3年)が心掛けてるのは「凡事徹底」。当たり前の事をしっかりと。それが結果につながる。南君が

「力の差をピッチャーと信頼を寄せるのが、エースの滝本尚也君(3年)。春季県予選はベスト8に進出、まずは夏の大会は10年ぶりの初戦突破を目指す。チームを支えるエース滝本尚也君(串本町串本で)」



打線の軸になる鈴村成聖君(左)と丸山魁斗君(みなべ町芝で)